

教科名	美術	校種	中学校
-----	----	----	-----

科目の配当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など, 授業の形態
1年	美術	必	1.5	
2年	美術	必	1	
3年	美術	必	1	

科目名 (教科名)		美術 (美術科)				
学年	1	単位数	1.5	必修・選択・展開	必修	
目的	1. 美術の表現活動を通じて、創造活動の喜びを味わう。 2. 美術を愛好する心情を育てるとともに、豊かな感性・情操を養う。 3. 美術の基礎的な技術・理論について理解し、美術的世界観を体感する。					
	学期	授業の項目		内容		
	1 学期	見つめるとみえてくるもの (感じ取ったことをスケッチに) <美術理論>①		<ul style="list-style-type: none"> ・「自画像」を鉛筆デッサンする。 描画道具としての鉛筆の基本的な技術を習得し、自分自身の顔を造形的に再現することを試みる。 ・造形や色に関する基礎的な知識や技法について学ぶ。 		
		なぜか気になる情景 (あなたなりの視点で描く) 遠近感を表す (学びを支える資料・技法) <美術理論>②		<ul style="list-style-type: none"> ・「モダンテクニック」や色彩理論を意識して絵画を制作する。 色彩に関する知識や絵の具を用いた絵画技法(モダンテクニック)を学び、それらの効果を生かした絵画作品を制作する。 ・「空間」を感じとれる絵画を描く。 遠近法や色価の基本的な考え方を理解し、それを用いて空間感のある絵画作品を制作する。 ・造形や色彩に関する基礎的な知識や技法について学ぶ。 		
3 学期	暮らしに息づく土の造形 (使いたくなる焼き物をつくる) <美術理論>③		<ul style="list-style-type: none"> ・「魔除け」を陶土で制作する。 陶土塑像の基本技術や「立体的」とはどのようなことであるのかを知る。沖縄の面シーサーについて調べ、その精神を生かしたオリジナルの魔除けを考える。 ・造形や工芸に関する基礎的な知識や技法について学ぶ。 			
評価の 観点	【知識・技能】 (30%)	対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができる。		<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の問題 (例) 選択肢問題・論述問題 		
	【思考・判断力・表現】 (40%)	自然の造形や美術作品などの造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができる。		<ul style="list-style-type: none"> ・実技課題の作品 ・課題に対するエスキースの内容 		
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を想像していく態度を養う。		<ul style="list-style-type: none"> ・制作態度 ・課題の提出 		
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 学科点、作品制作点、平常点を総合して成績を算出する。 ● 割合 : 学科点30%、作品制作点40%、平常点30%、 					
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 美術1・美術との出会い (日本文教出版) 					

科目名 (教科名)		美術 (美術科)			
学年	2	単位数	1	必修・選択・展開	必修
目的	1. 美術的活動を通じて、自分の内面への関心を深化させる。 2. 美術表現の基本的な技術を身に付け、創造性を養う。 3. 日本の美術に対して、興味を持ち、鑑賞する力を育てる。				
学期	授業の項目		内容		
1学期	新鮮な見方で風景を描く (視点の冒険) <鑑賞>①		・「視点」にこだわった「風景画」を制作する。 1年で取り組んだ透視図法や色価の考え方をもとに、省略や強調、変形などの効果も駆使して、新鮮な視点で表現された作品の良さや美しさを追求する。 ・日本を主とする美術の鑑賞。（「美術のながれ」を使用する。）		
2学期	印象や感情を表す (心のイメージを形に) <鑑賞>②		・「ステンドグラス」の表現的特徴について考える。 ステンドグラスの表現的特徴について考えたり、材料の特性を考えたりしながら、作品デザインの発想を広げて制作する。 プッシュステンド (教材) を用いて制作する。 ・日本を主とする美術の鑑賞。（「美術のながれ」を使用する。）		
3学期	材料の特性を生かす (つくって使って味わう工芸) <鑑賞>③		・「インペリアル イースター エッグ」について考える。 イースター エッグの意味を知り、それにふさわしい印象や感覚がもてるデザインを考案する。着彩やビーズ等で、卵の表面を幾何学的パターンを使って装飾する方法をインペリアル イースターエッグを参考にして、自分の作品に生かす。 ・日本を主とする美術の鑑賞。（「美術のながれ」を使用する。）		
評価の観点	【知識・技能】 (30%)	対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができる。	・定期試験の問題 (選択肢問題・論述問題)		
	【思考・判断力・表現】 (40%)	自然の造形や美術作品などの造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・創造的に考え、主題を生み出し豊かに発送し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。	・実技課題の作品 ・課題に対するエスキースの内容		
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を想像していく態度を養う。	・制作態度 ・課題の提出		
評価の方法と割合	● 評価方法 : 学科点、作品制作点、平常点を総合して成績を算出する。 ● 割合 : 学科点30%、作品制作点40%、平常点30%、				
教科書・副教材等	●教科書: 美術2、3上 学びの実感と広がり (日本文教出版) ●副教材: 美術のながれ (秀学社)				

科目名 (教科名)		美術 (美術科)			
学年	3	単位数	1	必修・選択・展開	必修
目的	1. 美術的活動を通じて、自分の内面への関心を深化させる。 2. 美術表現の基本的な技術を身に付け、創造性を養う。 3. 日本の美術に対して、興味を持ち、鑑賞する力を育てる。				
学期	授業の項目	内容			
1学期	使う人のことを思いつくる (心がほっとなごむもの) <鑑賞>①	<ul style="list-style-type: none"> ・「手彫り島ぞうり」を制作する。沖縄の手彫り島ぞうりの由来を知り、そのデザインを考える。また、修学旅行先である沖縄への自分の想いを材料や用具とのかかわり合いの中から具現化する。 ・西洋を主とする美術の鑑賞。(「美術のながれ」を使用する。) 			
2学期	想像の世界を表す (空想は現実を超えて) <鑑賞>②	<ul style="list-style-type: none"> ・「聖書の言葉」を1つ選び出し、そのイメージを視覚化する。入学以来歩みを共にしてきた聖書と向き合い、単にその言葉の意味だけでなく、色や形を用いそのイメージの表現することで、自分の内面を深く見つめる機会としたい。 ・西洋を主とする美術の鑑賞。(「美術のながれ」を使用する。) 			
3学期	世界で一つの装飾をつくる (自分へ贈る卒業記念品) <鑑賞>③	<ul style="list-style-type: none"> ・「飯茶碗」を制作する。「わび」「さび」(極限まで装飾を控え、素材を生かしきる、閑寂な表現)という日本固有の美意識があることを知る。私たちの先人たちが受け継いできた「自然を尊び、その中で生きる」文化を、茶碗作りを通して体感する。 ・西洋を主とする美術の鑑賞。(「美術のながれ」を使用する。) 			
評価の観点	【知識・技能】 (30%)	対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の問題 (選択肢問題・論述問題) 		
	【思考・判断力・表現】 (40%)	自然の造形や美術作品などの造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・創造的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実技課題の作品 ・課題に対するエスキースの内容 		
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を想像していく態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・制作態度 ・課題の提出 		
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ●評価方法： 作品制作点、学科点、平常点を総合して成績を算出する。 ●割合： 学科点30%、作品制作点40%、平常点30%、 				
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書： 美術2、3下 学びの探求と未来 (日本文教出版) ●副教材： 美術資料、美術のながれ (秀学社) 				